「認知症、前向き

本人の希望や意見

―認知症とのかかわり方について。

上田　まず、本人が認知症を受け入れることが大切です。認知症予防や治療に一生懸命になってしまう家族や介護従事者が目立ちますが、認知症は治るものではありません。年をとれば物忘れが多くなることもあります。多くの人が認知症を「悪いもの」として捉えてしまうが故に、「治さなければ」という意識が強くなりすぎてしまいます。

―その人らしい人生を送らせてあげるためには。

上田　生活に「張り合い」を持たせることです。張り合いとは本人が楽しいと思えること。認知症は段階的に症状が悪くなっていくため、初期は自分の意思はまだ明確で、話し方もしっかりしていて、身の回りのことも自分でできます。このような時期に治療に専念していきます。しかし、薬ばかりに期待するのではなく、考え方を変え、本人とのかかわり方を見直していくことが大切です。

上田　アリセプトなど認知症薬は、周辺症状を抑えるという効果は期待できますが、それは一時的なもので、治療薬ではありません。ただ、認知症に似たような病気でも治るものもあるため、どちらにしても、早めに医師に診てもらうことをおすすめします。認知症と判断された場合、誰でも心に傷がついてしまうと思いますが、現実に可能な状態であっても、付き添いの人の確保が困難で通院をあきらめていると思われます。

こうした理由から要介護高齢者の口腔内の状況が劣悪な状態であっても気付かれずに放置されてしまっていたり、あるいは気付いていても見過ごされてしまっているのが現状であると思われます。

厚生労働省による要介護者469万人のうち74・2％は何らかの歯科治療が必要であるのに対し、実際に治療を受けたのはわずか26・9％とされています。実に254万人あまりが歯科治療を必要としているのにも関わらず受けていないことになります。

このような問題を解決するために、訪問歯科が存在するわけですが、まだまだ数的にも質的にも十分とは言えず、一般に広く認知されているわけではありません。また、訪問歯科を依頼したくても、どこに頼めばいいのかというアクセシビリティの問題もあります。

要介護高齢者の口腔内を健康に保つという目的を達成するには、訪問歯科だけではなく、その方を取り巻く様々な職種、人、家族のサポートが不可欠であるのが現状です。

（次号へつづく）

12日は認定ケアマネジャーの会総会や筑波大学人間総合研究科の小澤温教授が「障がい者支援の理解～ケアマネジャーに期待するもの～」をテーマに研修を行う。（研修の参加費は会員2000円で一般は3000円）。

厚生労働省老健局振興課の高橋謙司課長が「介護保険法改正と地域包括ケア」について講演を行う。

その他、終末期医療における多職種連携や認知症のケアマネジメントなどのシンポジウムが開催される。参加費は事前申し込みの場合、会員8000円、一般1万円。当日の場合は会員・非会員ともに1万2000円。

第2回　口腔ケアで認知症予防　その②

教えて！訪問歯科

専門職や家族の支援不可欠

医療法人慶春会　武蔵野わかば歯科
院長　星野　真

1995年北海道大学歯学部卒業。医学博士、口腔外科専門医。2011年武蔵野わかばクリニック歯科口腔外科・摂食嚥下リハビリテーションセンター開設。代表を務める。

前回は認知症の予防にも、要介護高齢者の日常生活をより楽しく、豊かなものにするためにも、口腔機能が健康に保たれていることが大切であることをお話しました。

しかしながら、認知症の方を含めた要介護高齢者の口腔の状態は実際のところどうなっているのでしょうか。

厚生労働省が2005年に調査した「年齢階級別歯科受療率」によると高齢者の歯科外来受診は70～74歳で人口10万人当たり、1700人（1・7％）をピークに、その後急速に減少していき、75～79歳では、1000人程度（1％）、80～84歳では500人あまりと半減していきます。

この理由として、多くの高齢者は70歳を皮切りに年々入院受療率が高くなってくることが考えられます。入院することによって歯科受診の機会が損なわれているケースはよく見受けられます。また入院していない場合でも、多くは要介護状態となり、頻繁な歯科治療のための通院は身体的に困難となり、また身体的

香港4日間
5月17日(日)▶20日(水)
お一人様 羽田発着20.9万円(別途諸費用)
恒例となった高齢者住宅新聞社
回は香港の公立・民間の老人ホー
ーの視察の他、医療福祉分野で香
展示会及び用品展」を見学します。
香港政府の福祉全般の施策につい
ビジネスの可能性をその目と耳で
「香港国際医療機器展示会及び用